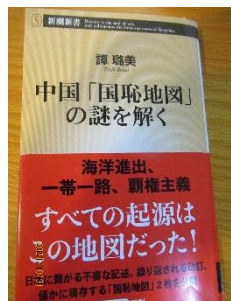


折々の記 No284 : 国恥地図、正に、三つ子の魂百まで

書名に惹かれて譚璐美氏の「中国「国恥地図」の謎を解く」(新潮新書)を読んだ。その概要を記したい。我等から見れば荒唐無稽であってもそれを信じて現実化せんとする彼らに唾然とする。



1 「帯」に云う！

海洋進出、一帯一路、覇権主義 すべての起源はこの地図だった。日本に繋がる不審な記述、繰り返される改定、僅かに現存する「国恥地図」2枚を公開

「国の恥を描いた地図」とは、なんとおぞましい名称だろう。


そこには深い恨みと憎悪の念がこめられているようで、聞くだけで

恐ろしかったが、怖いもの見たさから興味も沸いた。

探してみると、国恥地図には五、六種のパターンがあり、過去百年間の戦争によって、外国に奪われた中国の国土範囲を表した地図のようだ。戦前の中華民国の時代に作られたものらしいということもわかった。

地図と云えば、ここ数年、中国は地図の表記に強い拘りを表している。

2 国恥地図の概要及び読後感

- (1) 中国には、蒋介石の民国政府が八つの国恥記念日を決めていた。現在は、法的には存在していないが、共通認識として幾つかが定着している。5月3日、5月9日、7月7日、9月18日（これらの日々が如何なる日であるか言える日本人は少なからう。）
- (2) 国恥地図を発想したのは、蒋介石で、その狙いは、「愛国と雪辱の精神」を国民に教育することであった。中華民国第一次全国教育会議（1928年）が開催され、全国の小中学校の教育に国恥教育をしっかりと取り入れる等の教育方針を定めた。この一環として、教科書の改編、一般人に対する社会教育（民衆学校や民衆教育館、江蘇モデル）、各種国恥グッズ、様々な国恥地図の制作が行われた。
- (3) 譚氏が入手した1933年発行（世界輿地学舎）の「中華国恥図」は、小学生用の地理教科書に収録されていた。太い赤線が中国の領土であるという。日本海～琉球諸島～台湾～南シナ海～マレー半島～アンダマン諸島～ミャンマー～ネパール～中露国境～モンゴル～樺太～朝鮮半島 近隣18ヶ国、日本を含む参加国の一部を含んでいる。The image shows a map from a 1933 geography textbook. It depicts the territory of China with a thick red line. The map includes the Japanese Sea, Ryukyu Islands, Taiwan, South China Sea, Malay Peninsula, Andaman Islands, Myanmar, Nepal, the border between China and the Soviet Union, Mongolia, and the Korean Peninsula. It also shows neighboring countries and some participating countries.
- (4) 国際法上の領土を示すのではなく、清朝時代に実際に統治した領域を含み、中国の文化的影響力の強い、従属国であった朝鮮や朝貢を行った周辺諸国を清朝の版図と見做して線引きした。
- (5) 日本に関しては、琉球を自らの版図と見做している。確かに琉球王は、朝貢していた事実はあるが、朝貢即領土とはとんだ論理の飛躍だ。影響が大きかったのは理解できるが、大陸国家に占領された歴史的事実はない。

- (6) 清朝以前でも一時的に中国領或いはその影響力が強かった、更には中国の漁民が漁をしていたとの理由で自国領であるとの常軌を逸した主張が為される。
同書では、「文化的中国」なる語彙で現代政治と歴史的・伝統的な価値観を結び付けたとみている。文化的中国とは、「かつて中華帝国と疆域に住む藩属やアジア朝貢国との間に一定の支配関係が存在し、さしずめ「中華帝国の文明が光り輝いていた国や地域」とも云えると氏は述べている。(同書 224p)
- (7) 最近話題になる南シナ海の九段線は十一段線であったが、都合が悪くなったので、波線を二個削除したので、九段線となった由。何ともいい加減なお国柄だ。
- (8) 国際的センスがあると思われる中国の知識人でも、小さい頃に植え付けられた「九段線」や「国恥意識」は容易には抜けないという。教育の恐ろしさ知るべしだ。
このようないい加減なものを現実の国際社会に持ち出して、不当な要求をするなど、正にそのことこそが国恥だとは思わないのだろうか？一般的な国際常識の通じぬ国とどのように付き合えばいいのか困ったものだ。
日本人は、元来、淡泊なのだろうか？元寇があり、大東亜戦争後に進駐軍に日本占領された事実はあるが、日本が米英(軍)に、大陸の人々が抱くような恨み辛みを抱いているとは到底思えない。
中国人は、アヘン戦争(1840～1842)以来、列強に不平等条約を強要され、領土を租借、割譲させられ、国民が不当に虐げられた、その恨み辛みは永遠に消えず、その雪辱を期すことが民族の誇りの回復と信じているのだろう。そうでもしなければあの広大な国家を統治出来ないかもしれぬ。国家の一体感を維持するためには、外に巨大な敵を作ることが肝要なのだ。

(了)